

阪神大震災に伴う 3 日間の活動記録(1995 年 3 月号掲載・花山昇)



1 月 17 日 5 時 46 分発災。すぐに署前の国道 2 号線北側の家でおばあさんが生き埋めになっているとの駆け込みがあったのでその現場に当日救急の乗り組であった岡田隊員を応援に行かせた。

私と佐野士長でガレージ内に毛布をひき、消毒薬品等を出して、救護所を設営した。

6 時すぎごろ、全身に油がかかり熱傷を受けた 50 歳ぐらいの女性が乗用車で署に来たので、花山、佐野の 2 名で東神戸病院へ搬送。病院内は多くのケガ人が駆けつけており医師もまだ対応を始めていなかったが、長く時間をかけるわけにはいかないので、待つて受診する様言い、院内から出た。

病院前に乗用車で重症(下顎呼吸)の子供を運んで来ており、どうしたらいいかと聞かれたが、道路情報、病院情報も全く分からず、乗用車には看護婦が同乗していたため、「通常なら3次救急病院は中央市民です」と教えて、その看護婦に判断を任せて、本署に引き揚げた。

帰署後次々と押し寄せるケガ人に応急処置を実施した。

8時ごろ生き埋めの情報(駆け込み)が多数あったため救出にいかねばらぬと思い、署長に「何名か連れて救助に行きます」と言うと、そうせよとのことで西岡本1丁目方面へ東灘4(田中、香西、田中裕二、井上)東灘90(花山、一法師、鶴田、甲斐)計8名で救助に向かう。田中町4丁目本山南中学校西側のJR高架南側に停車したところ救助を求める住民が押し寄せて来たため隊員が2名ずつバラバラになり救出に向かった。

- 田中町5丁目6、大前ビルで70歳ぐらいの女性の死亡確認救出せず(生存者の救出を最優先と考え、死亡確実の要救助者は救出活動せず)
- 西岡本1丁目付近で60歳ぐらいの女性の死亡確認救出せず。
- 西岡本5丁目付近で50歳ぐらいの女性を救出(生存)本山第二小学校で、医師が処置していると住民から聞いたので担架で搬送した。
- 西岡本1丁目、○○文化住宅で、50歳ぐらいの女性(生存)を救出。同場所で、25歳ぐらいの男性を救出(生存)高校生ぐらいの男性2名を救出(生存)し、最後の1名を搬送しようと隣の住宅の屋根に出したところ、屋根が抜け落ち花山、田中、香西、高校生の4名が室内に生き埋めになった。私も含め隊員2名の自力で瓦等ガレキをのけ脱出、すぐに要救助者も引き出し、路上に降した。

かなりの粉塵を吸いこみ、隊員の疲労もひどく、これ以上連続しての救出活動は不可能と判断。

隊員全員を集め引き揚げた。車にもどる途上、80 歳ぐらいの女性 1 名の死亡を確認した。(団員が救出活動をしていた)

12 時ごろ帰署。

13 時ごろ東灘 4(田中、香西、福田(一)、藤井、警察官 1 名)東灘 90(甲斐、花山、井上、土田)

で田中町 2 丁目○○マンションで子供が生き埋めになっているとの情報を得て救出に向かう。

同マンション 1 階が完全につぶれており、1 階の奥の部屋で子供の声が聞こえ、生存を確認、小学生ぐらいの男の子 2 名を救出した。

- 田中町 2 丁目○○物産で 50 歳ぐらいの男性を救出(生存)
- 田中町 2 丁目民家で 90 歳ぐらいの女性を救出(生存)
- 岡本 2 丁目付近でおばあさんが生き埋めになっているとの情報を得て香西隊員と 2 名で行ったが完全に倒壊しており、生存の可能性も極めて低く、救出不可能で断念した。
- 先程の○○マンション 4 階で、階段が倒壊したため脱出できなくなっている老夫婦 2 名、60 歳ぐらいの女性 2 名を梯子でかかえ、救出した。
- 田中町 1 丁目○○マンション 1 階が完全に倒壊しており、中に男性(50 歳ぐらい)がいるとの情報で行くと、かなり奥におり、声をかけるとかなり元気で、ケガはないとのことであり、その時すでに暗くなっており、投光器、碎石機等が必要でその時点では応援は望めず、必ず救出に来ると言い残し引き揚げた。

20 時ごろ東京消防庁と千葉の救助隊のチームと花山、堀家司令と共に本山中町 4 丁目方面に

救出に向かう。

- 本山中町 4 丁目〇〇病院 1 階から 24 歳の女性救出(死亡)
- 本山中町 4 丁目 60 歳ぐらいの男女 2 名救出(死亡)
- 本山中町 4 丁目 60 歳ぐらいの男性 1 名救出(死亡)

22 時 30 分ごろ〇〇マンションの男性を救出に向かう。午前 0 時すぎに救出し帰署した。

1 月 18 日 2 時、東京、千葉チームと東灘 4(花山、田中、香西、井上)東灘 17 等で田中町 5 丁目〇〇住宅 4 階の倒壊室の救出開始、6 名(生存)救出、5 時ごろ終了帰署した。

7 時 30 分ごろ MC ターミナルへ広報車(花山、田中、香西、井上)(以下 4 小隊という)で泡原液を搬送。

9 時 30 分ごろ東灘 4 小隊で、御影中町 5 丁目〇〇ビルに救助に向かう途上、名古屋の救助隊と出会い、合流する。完全に倒壊した 2 階部分に 4 名生き埋めになっている、との情報があったが、状況から生存の可能性は極めて低く、室内はコンクリートの瓦礫で埋まっており、碎石機がなければ屋内進入不可能なため救出を断念した。田中、井上、名古屋の 2 名は徒歩で引き揚げ、花山、香西、名古屋の 2 名は東灘 4 で引き揚げた。途上、住民が車で追いかけてきて、生き埋めがいるというので御影本町 8 丁目へ行ったが、木造住宅 1 階が倒壊、2 階部分が今にも倒れそうでかなり危険であり、生存の可能性も極めて低いので断念した。

12 時ごろ住吉宮町 6 丁目〇〇住宅に生き埋めの情報あり東灘 4 小隊と広報車(甲斐、藤井、土田)で向かう。

27歳の男性が生き埋めになっていたが死亡しており、またさらに倒壊危険があったため断念した。近くで、甲斐、香西が80歳ぐらいの女性の生き埋めを救出に行ったが前記と同じ場所で断念し、14時ごろ帰署した。

18時ごろ本山中町4丁目で、80歳ぐらいの女性2名が生き埋めになっていたが、同じ理由で断念した。

19時30分ごろ引き続き本山中町2丁目8の火災現場に出動。最先着し、消火栓部署したが、水が出ず本山第3小学校に向かって逆延長する。

東灘3小隊の筒先1線をもらい南側から放水、以降南、西方面の防御にあたり、花山、田中と2名で〇〇方屋根上から放水するも次々と延焼、放水していた〇〇方も延焼したため後退した。

火勢が強く、西側1線では全く消火不可能で鉄筋造のセントラルハイツまででくい止めようと努力した。ところが防火造のためそれ以上の延焼危険がないため、延焼している東西の防御へと移った。

その頃応援の10トンタンク車が到着、〇〇方の屋根から1線放水し、延焼をおさえた。

1月19日2時ごろほぼ鎮火状態となり、4時ごろ部隊を縮小、東灘4小隊は4時ごろ引き揚げた。

12時、同士の現場へ残火整理のため現場の隊員の交替へ向かう、途上、本山中町4丁目の火災の撤収作業を手伝い、本山中町2丁目の残火整理を行う。

15 時ごろ残火整理を終了撤収したところ、本山中町 4 丁目の残火整理へ向かう。東灘 1(塚本、生船、表原、笠松)と会ったため合流し、要玄寺川より延長する。本山中町 4 丁目現場で放水しようとしたが、水量圧ともに少ない。付近の人がかなり昔の防火水槽があると言うので見ると、水利地図にも載っていない。10トン程度と思われる水槽があったので、車両を移動、花山、表原、井上とで要玄寺川からの延長線(約 30 本)を撤収、他の隊員は残火整理をした。

20 時ごろ塚本土長が体の不調を訴えたため現場交替を要請。

21 時ごろ 2 係の明石小隊と交替帰署した。

1 月 20 日 7 時 30 分ごろ住吉本町のコープ火災現場に、花山、井上と東灘 15(三浦、角田)で向かう。スノーケルで 4 階に屋内進入し 9 時まで放水。金庫室内には熱気のため進入できず、2 係明石小隊と現場交替し引き揚げた。

感想

- この度の災害は規模が大きすぎ、また余震で進入している建物の倒壊危険があり、現場で初めて恐怖を感じた。
- 鉄筋造倒壊の生き埋め現場ではコンパクトな碎石機(電動)が必要不可欠であり、人力ではどうにもならなかった。
- 木造倒壊現場では、更なる倒壊危険が大であり、やたらに障害物をチェーンソー等で切るとは非常に危険であり、のこ、バール等人力によるものが役立ち、また倒壊防止のためのつかえ棒(アルミ製で伸縮し、長さの調節できるもの)の必要性を感じた。